

(注意) A4サイズ・横書き

<活動の様子>



事業名 『ごごしま検定2018』の作成による興居島の魅力発信と Civic Pride の喚起

<目的>

- (1) 『ごごしま検定』を通して、多くの人に興居島の魅力を発信する。
- (2) 『ごごしま検定』を通して、島民の人に故郷への誇り・愛着心(=シビックプライド)をもってもらう。また、そうすることで、人口が少なくても、いっそう魅力ある地域づくりの道を探る。
- (3) 移住者やUターン者、島への訪問者を増加させ、人口減少抑制や地域社会・経済の活性化に貢献する。
- (4) 興居島での人口減少抑制策、また、人口が少なくても魅力ある地域の姿を探ることは、50年後、100年後に人口減少にみまわれると予想されている松山市市街部の将来についても考えるモデルケースとできるのではないかと、考えている。

※ 『ごごしま検定』の調査・作成の準備に取りかかった矢先、興居島は西日本豪雨により甚大な被害を受けた。島の方々の協力で被災状況調査をし、活動メンバーに「この大変な時期に、検定を実施すべきだろうか？」と問いかけたところ、高校生として島の「復興」のために、できることを実行していきたい。そして、規模は縮小しても『ごごしま検定』を実施することで島の人々を少しでも元気づけることができるのではないかと考え、「復興(伝統ある「島四国」祠の被災状況・清掃・整備)」と『検定』を並行して行うこととした。

<事業内容>

- ・11月10日にハイムインゼルごごしま主催の「秋の収穫祭」で『ごごしま検定 ver.1』を実施した。(対象は島民の方中心)
- ・『検定』の成績優秀者には「ごごしまマスター」認定盾を贈呈し、“しまの語り部”として、興居島の魅力を広く発信し、知名度をアップしてもらう。
- ・豪雨災害の被害を受けた興居島の復興の一環として、10月～12月に「島四国」の清掃ボランティアを実施した。
- ・松山北高校公式HP、『北高新聞』、文化祭、「総合的な学習の時間」を利用し、あまり知られていない興居島の被災状況や復興に向けての様子を発信した。文化祭では、募金活動を行った。
- ・また、南海放送ラジオ「かもれでいナイト」、愛媛新聞「時代を歩く 愛媛現場ルポ」の取材に中心メンバーが対応し、興居島の現状をより多くの人に知って頂くことができた。
- ・2019年3月24日に開催された「しまのわ体育祭2019」で『ごごしま検定 ver.2』を実施した。(島外から来た方々にも多く参加して頂くことができた)

<市民の参画や他団体との連携>

- ・ハイムインゼルごごしま管理人の方 ・「興居島の面影」著者の方
 - ・興居島地区まちづくり協議会の方々 ・興居島地区の町内会長さん ・興居島にお住いの島民の方々
 - ・松山市役所興居島支所の支所長さん、職員の方々
 - ・松山市役所市民参画まちづくり課の方々 ・松山市役所坂の上の雲まちづくりチームの方々
- ほか、多くの方々に協力して頂いた。

<市民に対するPR>

・全国の多くの地域がかかえる問題のひとつが「人口減少による地域社会の活力の低下」です。松山市も一昨年、興居島に移住体験施設「ハイムインゼルごごしま」を設け、移住者増、人口減少抑制のための取り組みをしています。興居島は松山市中心部へのアクセスも良く、人情味あふれ自然豊かな、伝統と歴史を持つ魅力的な地域です。市民のみなさん、興居島で「サイクリング」、「島遍路」や「船踊り」、「恋人峠」、島からの三津浜花火大会の絶好の眺め等を、ぜひ一度、体験してみませんか？
 松山市中心部からわずか30分。そこには“ユートピア”興居島があります。